



# 新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳  
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

葉桜の艶やかな緑が美しい5月になりました。こいのぼりは少なくなりましたが、店先の草餅や柏餅に季節を感じます。春の大型連休。今年も小田原は北条五代祭りに街中が湧き、賑わう事でしょう。新九郎は連休中は休廊となりますが、2週間からは楽しみな展覧会が続きます。平塚市美術館では「石田徹也展」が評判です。新生活の疲れが出るこの時期、近隣のギャラリーめぐりや地方美術館でのんびり過ごすお休みは、いいリフレッシュになることでしょう。

## 新九郎 5月の展覧会のご案内

会期 展覧会名	見どころ
 5/7 (水) ~12 (月) 茂田綾子水墨画展	いつもの桜を始め、瞬間を捕えた箱根風景、墨彩画、花 12ヶ月等約 40 点
 5/9 (金) 19:00-20:00 ブツダと仏像入門④	講師：廣瀬郁実 (仏像ガール) 連続講座。今回のみ参加も可 参加費 ¥ 600
 5/14 (水) ~19 (月) 第 31 回光友会写真展	風景、花等様々なモチーフの写真展、メンバー 8 名
 5/16 (金) 新九郎デッサン会	どなたでもお気軽にどうぞ！ 18:15-20:45 会費 1500 円 コスチューム、固定ポーズ
 5/21 (水) ~26 (月) 川合昭二 & 松野光純 (画歩人) 二人展	スケッチングウォークの会の創立 10 周年を迎え、二人の展覧会を開催します。
 5/23 (金) 19:00-20:00 ブツダと仏像入門⑤	講師：廣瀬郁実 (仏像ガール) 連続講座。今回のみ参加も可 参加費 ¥ 600
 5/28 (水) ~6/2 (月) 第 1 回 グループ潤	具象系の作家 5 人による新しいグループの記念すべき第 1 回展 (裏面に紹介記事掲載)

## 近隣・友の会会員の展覧会情報

会期・展覧会名	会場
5/14 (水) ~19 (月) 深美会展 油彩・水彩画	飛鳥画郎 0465-24-3790
5/21 (水) ~26 (月) あらたま展	飛鳥画郎 0465-24-3790
5/7 (水) ~12 (月) 鈴木誠司パステル画展'14	アオキ画郎 2F 0465-23-5624
5/14 (水) ~19 (月) 水彩画愛好会作品展 (第 11 回)	アオキ画郎 1F 0465-24-0637
5/9 (金) ~15 (木) 第 5 回記念 五香会 美術展	ダ イティWEST 1F キヤノン 0465-46-0015
5/2 (金) ~25 (日) 横井山泰展-まめでかえります-	さんしんギャラリー 善 055-991-0034 三島市
5/20 (火) ~31 (日) 横井山泰展 -すずめ百まで-	ギャラリー エクリュの森 055-976-2320 三島市
4/29 (火) ~5/11 (日) 内山睦展	すどう美術館 0465-36-0740
5/13 (火) ~25 (日) 東日本げん き7-トプロジェクト チャリティ展	すどう美術館 0465-36-0740
5/21 (水) ~25 (日) 第 67 回小田原市 市展 2014	生涯学習センターけやき 0465-33-1706

## 東海道五十三次 9 府中宿 (駿府城)

### 5 年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



府中宿は、現在の静岡市にあたる。駿河の国の政治の中心地であったから府中といい、駿河の府中であるところから駿府ともいった。

慶長 12 年 (1607) 徳川家康は、駿府を隠居地と定め駿府城を普請。本丸を中心に、

二の丸、三の丸を設け、江戸からこの城に移り、晩年の 10 年を過ごした場所であったが、その後の火災や地震でほとんどの建物は失われ、明治になってから本丸と二の丸の間の堀も埋められた。現在城址は、駿府公園として整備され、平成元年には二の丸東御門と巽櫓が復元されている。

## 思うことなど

### 横井山 泰



さて 4 月、

母校、多摩美で新入生へ OB・OG としてトークショーをした。1200 名の新入生のほとんどが未成年で時代は変わったものだ。僕は二浪した、だから大学に合格した時の気持ちは言葉では言えない。もちろん彼らもそうだろう。当時は祖母の家において「受かったよ！」という電話口で祖母は「バンザーイ!!!」を三度も叫んでくれた。僕は「これから芸大入試！」という気持ちだったけど、今思うと多摩美が良かった。(不思議なのか当然なのか多摩美の新入生には「芸大に落ちた」という意識がある)

大学の恩師の相笠先生が、沼津の寺院の襖絵を描くために逗留していたので、4 日後にロンドンへ旅立つ教え子を連れて行った。先生にしてみれば孫のような年齢の彼にも「辛くても堂々としている!」「作家は、これでいいと思ったら死ぬ」いつものように話してくれた、ロンドンに行けば彼は実感するだろう。「画家は対等だ」という師の言葉を後から思い出した。

郷里の三島では 5 月に 2 つの個展を開く。三島信用金庫本店の「ギャラリーさんしん」では学生時代から現在までの大作を集めた。200 号の 3 連作や未発表のコンパネシリーズ、受賞作など今まで縁の薄かった郷里で「こんなことをしていましたよ」という展覧会になる。「エクリュの森」では新作を発表する。愛犬ボンのシリーズである。

## グループ潤 5月28日(水)～6月2日(月)

県西地域を中心に地元の芸術文化の進展に寄与することを目的として、「西さがみ美術交流展」が小田原市民会館を会場に、2008年より開催された。実力のある若手からベテランまで、絵画、版画、彫刻、陶芸、染色等幅広いジャンルの作品で市民には好評であったが、当初の企画案通り2012年第5回展をもって終了となった。この出品者の中から具象系の作家が新たにグループを結成。2014年より新しい形で展覧会を開催する事になった。今回が第1回の開催となる。メンバーの作品とプロフィール、コメントを紹介いたします。



渋谷武美 TAKEMI SHIBUYA  
1941 山形県生 円舘勝三氏に師事  
2005 年日彫展会員、日展評議員を共に退会、個展3回、兄弟展2回、  
現在 西相美術協会会員

薫風の初夏に少女が背伸びしたがる様子を表現したかった。



小泉正彦 MASAHIKO KOIZUMI  
1955 平塚市生 東京造形大学造形学部彫刻専攻 無所属 個展、グループ展多数 現在 大磯町在住  
不景気 自殺 不安 殺人事件等マイナス要因が日本中を覆っています。そうした中もはや人を喜ばせる絵画や彫刻が求められなくなり、画家彫刻はひたすら自分の方に課題を探し自己救済や自分のためのみに制作活動がスタートいたしました。いい傾向だと思っています作品はまず自分のためにあるべきです。



藤井兼弘 KENKO HUIJI  
1936 富山県生 武蔵野美術大学卒業 国画家出品、個展、グループ展多数、現在無所属、  
現在 大磯町在住

私は30代から個展を中心に作品発表をしてきましたが近年風景の自然空間の実感に気持を集中して画面作りをしています。



澤岨盛勇 SEIYU TAKUSHI  
1943 沖縄生 武蔵野美術大学造形学部油絵学科(通)卒業 団体展、コンクール展、グループ展、個展、  
現在 西相美術協会会員

丹沢山の麓「やどりぎの里」にすまわせて頂き、好きな絵を描きながら平穏に暮らしております。戦(いくさ)の無い平和な世の中に感謝しながら。



茂登山東一郎 TOICHIRO MOTOYAMA  
1940 小田原市生 1965 東京芸術大学油画科卒業 個展、グループ展多数 無所属、自然体でやっています。  
現在 南足柄市在住  
出品作品 5～6点、それぞれ多少違いますが、写真の「窓から」について。これはあまり写実的ではありません。現実感も乏しいです。単純化した立体と面による構成、空間に関心があって組み立てた風景です。

### 絵てがみ折々 ー小田原の暮らしの中でー

野地 三恵



南足柄の、地蔵堂から夕日の滝に続く道は私の大好きな場所で、暇が出来ると車を走らせてはよく行きます。雨の朝、国府津を出て地蔵堂に着くと、あたりが深い霧に包まれていたこともありました。

桜の終わったこの季節は、茶畑の上に何本もの鯉のぼりが泳ぎます。その中で、鳥の鳴き声に聞き入ったり、野の花をスケッチしたり、滝を見に行ったりと飽きることがありません。

地蔵堂の足柄人形の工房を訪ね、人形作家の府川さんと知り合ってから随分久しくなります。「金太郎のふるさとまつり」を府川さんと絵てがみの仲間たちと一緒にしたのもいい思い出。人形作り、スケッチ会、「街なみ再発見!展」の絵もここで描きました。

### 4月のこと

平塚市美術館で石田徹也展が始まった。現代社会の孤独や不安を描き、31歳の若さで逝ってしまった日曜美術館でも取り上げられた画家である。展覧会図録の販売を委託されミュージアムショップに時々立っている。オープンから若者が多く来場し、東京、横浜、埼玉、千葉など県内外からの来場者で賑わっている。図録を抱え3日間連続で朝から夕方迄いた男性は、なんと札幌から来られていた。中高生が連れ立って来ているのも特徴だ。時間をかけ1枚のポストカードを選ぶ姿が微笑ましい。初日には焼津からご両親も来場されていた。生きていれば40歳という石田徹也さんと同世代の男性は、いつまでも立ち去り難い風で閉館間際また会場に引き返した。会場は独特の雰囲気に包まれている。

おだわらミュージアムプロジェクトでは、「石田徹也展」企画担当の勝山滋学芸員に出張ギャラリートークを依頼していた。4月22日当日は平日の夜、雨にもかかわらず37人の参加をいただいた。この展覧会は4つの美術館の共同企画の巡回展である。昨年開催した足利市美術館では当初の予想を大きく上回る1万人の入場者数を記録した。平塚でも開催前から77件ものツイートがあり、若者たちの関心の高さが伝わる。9年前に出版された遺作集は美術書としては異例のアマゾン売り上げ1位を記録したこともあり累計3万7千部のロングセラーとなっている。勝山学芸員は若者の共感を呼ぶこの現象を、「尾崎豊」を思わせると話していた。作品と共に51冊のノートに書き込まれたメモやスケッチを見ながらのお話は、今まで知らなかった制作の動機やアイデアの源泉、ユーモアある石田の一面を知る事が出来た。本には書けないエピソードも交えたわかりやすい解説に、参加者は一様に会場でじっくり見てみたいと感じた充実したトークであった。6月15日まで。☔